

R と L

孫娘マヤの動画が時々送られてきます。最近、アルファベットが書けるようになりました。「R ね。」と書きながら発音しましたが、マヤの口の中、さらに頭の中で響いている音に感心しました。また、クリスマスのころ、マヤのいない間に部屋の壁に赤や黄色のたくさん蝶々の飾りを張り付けたようで、帰宅したマヤが感嘆の声をあげました。

”Wow, beautiful! Beautiful! Where did they came from?”

文法の間違ひがあるにせよ、beautiful の最後の L をちゃんと発音していて、これにも感心しました。

R と L がうまく聞き取れないために数々の失敗をおかしてきた私は、幼児の言葉の聞き取り能力、そしてそれを再現する能力に感心するばかりです。『大君の都 - 幕末日本滞在記』の著者オールコックは「日本人は R でも L でもない音を発する、そしてこの両者の区別ができない」ことを書いています。我々にとって年季がはいっている「らりるれろ」からはなかなか卒業できません。

9 月に、イタリア語を教えてもらっている F 先生に関東大震災の話をしていました。

「朝鮮半島から来た人たちが殺されたって本当ですか？」

「そうです」

「でも、どうやって朝鮮半島の人たちを日本人から識別したのでしょうか？」

「手当たり次第、通行人に日本語を発音させたみたいですよ。上手に発音しなくて殺された日本人もいたのです。私は時々想像するのですが、外国で日本人狩りをやっているところがあって、私は捕まって R と L を発音させられるのです。私を捕まえた人は『日本人をここに見つけたぞ!』と叫ぶのです」

「ワハハ・・・」

大笑いされました。

「でもこれは日本人ばかりでなくアジアの人たちに共通していますよ」

と慰めてくれました。

今も、書き取りをするときには、R の場合は Roma、L の場合は Luna (月) と言ってください。

アメリカ人の R 氏と話していて、よく arrogant と elegant を聞き間違えます。余談ですが、R 氏とも関東大震災の話をしました。翌月、お会いしたときにおっしゃいました。

「自分が指導している優秀な日本の若者ですが、関東大震災の時に朝鮮系の人たちが殺されたということを知らなかったとびっくりしていましたよ。これには僕もびっくり」

私もびっくりしました。『君たちはどう生きるか』のコペル君ではないですが、自分の(国の)負の歴史を逃げないでしっかりと見据えることが人生の(国の方針の)基点になると思

うのですが。そう言えば今日の『朝日新聞』によれば、中国では教科書から文化大革命の項目が削除されるとか・・・。

ところで、マヤの書く R は、お饅頭のような楕円形の下に短い足を 2 本生やして、まるで歩いているようです。



写真：コートを後ろ前に着て、フードに顔を突っ込もうとしています。

(2018年1月13日 律)